

途上国人口動態ツアー

- i 人口転換の段階でみる途上国の特色
- ii **BRICs**含む新興国の動向

J09053 大江 由紀

05/31/2011

i 人口転換の段階でみる 途上国の特色

* ステージ 1 <多産多死型>

-サハラ以南アフリカ-

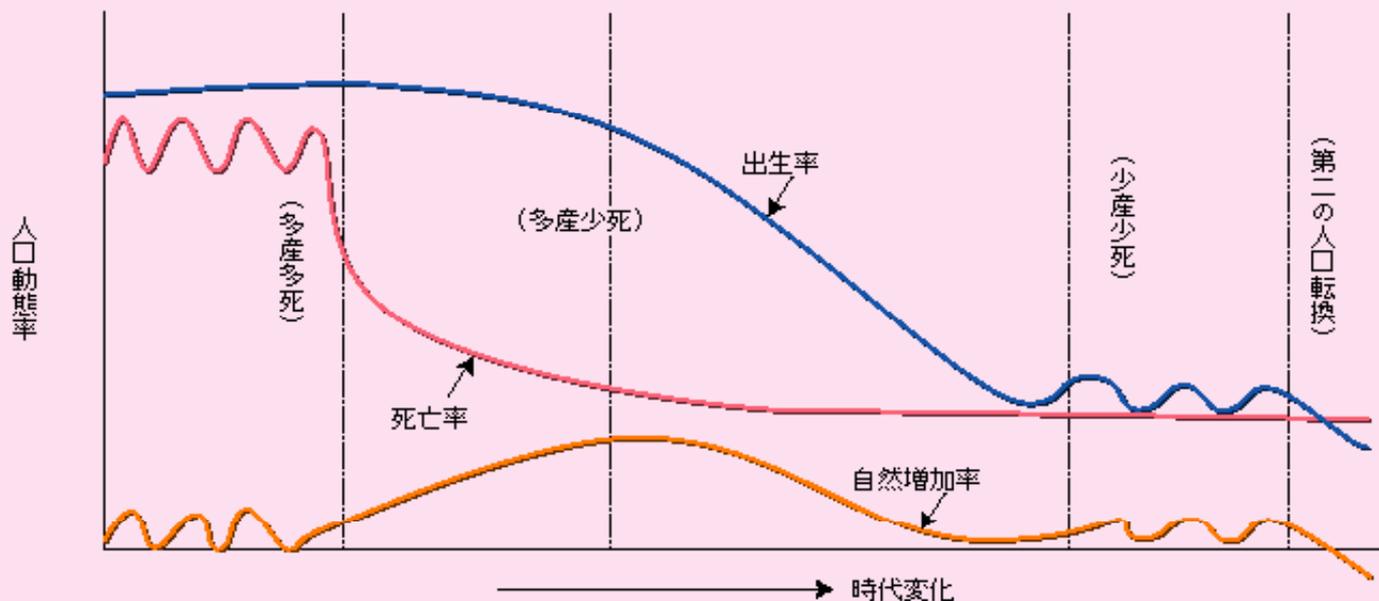
- ・ 世界一高い出生率 (5.6人/2005年 , 4.1人/2030年 , 3.0人/2050年)
- ・ 世界一短い平均寿命 (49.1歳/2005年 , 57.8歳 , 2030年 , 64.5歳 , 2050年)
- ・ 15-24歳の人口が全体の36%を占め、先進国の倍にあたる。
この傾向は今後数十年続く見込み
- ・ 世界の最貧国が集中する地域であり、住民の43%が1日1ドル以下の生活
- ・ AIDSの蔓延 (世界の全患者の68%が集中) が経済発展や生活/教育水準の向上を阻害
- ・ 貧しい北部 (イスラム)、富める南部 (キリスト教) の格差が深刻化

* ステージ 2 < 多産少死型 >

* - アラブ諸国 -

- ・ 高い出生率 (3.7人/2005年 , 2.9人/2030年 , 2.5人/2050年)
- ・ 不安定な政情、高い失業率 (国によって20~40%)
- ・ 寿命はこの半世紀で25歳延びている (2005年で67歳)
- ・ 中でもパレスチナ、イエメン、ソマリアといったアラブ諸国の最貧国では出生率が4-6人と高く、若者の膨張が顕著
- ・ 高齢化はゆるやかだが、アラブ諸国全体の人口は爆発的に増え続け、2050年には現在の倍に達する見込み
- ・ 若者が職に就けず、中産階級が増えない→内需が拡大しない
- ・ 資源の輸出で潤うのは一部の産油国にとどまる

* ステージ3 <スイートスポット>
インド…後述
ラテンアメリカ諸国



資料：阿藤誠「現代人口学」を元に内閣府で修正

↑人口転換 多産多死から少産少死への移行

ii BRICs含む新興国の動向

* **BRICs**（ブラジル/ロシア/インド/中国）の特徴

- ・ 著しい経済成長に共通する要因

広大な国土（4カ国で世界の29%）

豊富な天然資源（石炭、鉄鉱石、天然ガス、原油）

莫大な人口（4か国で世界の約45%）

強大な軍事力（ロシア、インド、中国は核を保有）

多民族、多人種



* BRICsの人口動態

① ブラジル

- ・ 人口1億9500万人/2010年
- ・ 出生率は80年代から人口置換水準付近
- ・ 高齢化の進行は比較的ゆるやか
- ・ 2010年の経済成長率7.5%
- ・ 貿易依存度が高く、内需を増加させる必要がある
- ・ 3000億ドル超の公的債務

② ロシア

- ・ 人口1億4000万人/2010年
- ・ 出生率は20世紀初頭から低下し始め、60年代には置換水準に、90年代に1.3となり、以降このまま推移する予想
- ・ 健康問題、医療制度破綻により高い死亡率、短命（男性59歳）
- ・ 自殺率世界第3位（日本は6位、ともに2010年）
- ・ イスラム系移民は多産少死→イスラム系人口の割合が増加
- ・ 高齢化、人口減少（毎年70万人）が進行中
- ・ 資源産出に依存した経済

③インド

- ・ 人口12億1400万人/2010年→2030年には中国を抜きトップに
- ・ 出生率2.9
- ・ 人口ボーナス期はこれから訪れる→成長の後押し
- ・ 高齢者人口は2030年でも8%程度とゆるやかな高齢化
- ・ 人口の7割は貧しい農村部（低い生活/教育水準と識字率）
- ・ カースト制や男尊女卑の慣習→成長の足枷

④中国

- ・ 人口13億5400万人/2010年
- ・ 出生率1.6
- ・ 2010年GDP第2位→2050年にはアメリカを抜きトップになるという説、高齢化のために再び逆転されるという説
- ・ 2015年以降、労働力は減少
- ・ 人口ボーナスの恩恵を十分に受けられぬまま急激な高齢化へ

※インド、中国は人口における男女比の差が大きい

インド・・・男6.27 女5.87

中国・・・男7.30 女6.51

（単位は100万人）



※南アフリカがBRICSのSとして数えられることがしばしば→今年4月13日に北京で開催された4カ国首脳会議に南アフリカが参加し、以降BRICsではなくBRICSに正式名称を変更している。

⑤南アフリカ

- ・ 人口4910万人/2009年
- ・ 出生率1.9
- ・ 金やダイヤモンドの産出
- ・ 平均寿命 男性50.0歳、女性48.29歳、65歳～5.4%/2010年
- ・ AIDS問題、白人(9.2%)と非白人の経済格差

⑥その他

- ・ コールドマン・ サックスがネクスト11と名付けた11カ国のうち、好パフォーマンスを見せているインドネシアとフィリピンは2010年の出生率2.28/3.23であり、ともに人口は増加傾向。寿命の延長、高齡化の動きはゆるやか。
- ・ 90年代、アジアで新興国の筆頭であったシンガポール、台湾、香港、韓国の人ロ動態はすでにステージ4の少産少死型へ移行しており、急速な高齡化が進んでいる。

< おもな参考資料 >

- ・ CSIS The Graying of the Great Powers ,2008
- ・ 総務省 統計局・ 政策統括官・ 統計研究所HP
<http://www.stat.go.jp/index.htm>
- ・ ゴールドマン・ サックスHP
<http://www2.goldmansachs.com/japan/> (日本語版)
<http://www2.goldmansachs.com/> (英語版)
- ・ 社会実情データ図録
<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/index.html>